



やり抜く力の育て方

今月号の巻頭特集は将来に役立つための能力の二つ「やり抜く力」について紹介しています。新型コロナウイルスの流行もあつたように、将来の予測が困難な時代といわれています。このような時代に求められるのは答えのない問題を解く力。文部科学省の学習指導要領でも「未知の状況にも対応できる力の育成」が進められています。才能よりも必要な能力といわれ、幼少期の過ごし方次第で大きく変わります。ぜひ参考にしてください。

心 理学者で子ども
のやり抜く力の
研究を行う、ペンシルバニ
ア大学のアンジェラ・ダッ
クワース教授によれば、
世界で活躍する人に共
通してみられるのはIQ
の高さや運動神経、体格
などの生まれ持った資質
ではなく、粘り強く取り
組む、やり抜く力だとい
われています。どんなに
素晴らしい才能があつて
も、最後までやり遂げる
ことができなければ、当
然結果はついてきません。
やり抜く力は幼児期の
育つ環境や周りの働きか
けによって、培うことがで
きると思われています。



1 温もりある信頼関係を築く

日々子どもに向き合っていれば、イライラしたり怒ったりということがあつても、その日何があつたとしても、「お父さんお母さんは私のことが大切なんだな」と感じられるよう、寝る前には「大好きだよ」と抱きしめるのを日課にする方法も一つです。



2 結果よりも過程に関心を向ける

子どもが目標を達成した時は、結果よりも頑張った過程を褒めると、子どものやる気が持続します。例えば「ピアノ発表会で上手に弾けてすていね！」よりも「毎日練習続けたから上手に弾けたね！」と褒めてあげましょう。



3 問題を解決できるという自信とスキルを育む

うまくいかないことがあつたら「他に何ができるかな？」と話し合い、具体的な行動を起こすサポートをします。困難にぶつかつても「何とかできる」と立ち上がることで自信とスキルを培いましょう。

「できる・できない」とい
った結果に焦点があて
られがちです。目標を
達成させることを目指
すアプローチでは、安心
感は育ちにくく自発的
なやる気を持続するこ
とは難しいでしょう。

子どもが目標を達成した時は、結果よりも頑張った過程を褒めると、子どものやる気が持続します。例えば「ピアノ発表会で上手に弾けてすていね！」よりも「毎日練習続けたから上手に弾けたね！」と褒めてあげましょう。

通園や習い事ははじめると保護者以外の大人と関わる機会が増えます。親子関係と同様、先生と子どもが信頼関係を結ばれるこ

とで、やり抜く力も育みやすくになります。子どもの個性を理解し、成長を促してくれる大人のサポートが必要です。

この方に
聞きました



長岡 真意子さん Nagaoka Maiko

子育て研究者。北米にて幼児教室・小中高生クラス・大学講師として、様々な文化背景を持つ子どもの育ちを20年間指導する。国内外の資料を基に執筆した子育て記事多数。著書に「敏感な子を育てるママの不安がなくなる本」がある。名古屋大学大学院人間情報学研究所修士課程修了。「ユア子育てスタジオ (http://kosodatekyua.com/)」代表。

子どもの可能性を伸ばす先生を紹介 /

北摂の習い事・スクールでは、どのようにして子どもの「やり抜く力」を育むのか。それぞれの先生に伺いました。

WEBでも「やり抜く力の育て方」を紹介
情報紙CityLifeのWEB「City Life News」で
さらに詳しく紹介しています。
<https://citylife-new.com/>



オーエン先生

グローバルヴィレッジ
インターナショナル
プリスクール



個性を伸ばし、国際人として羽ばたく「力」を子どもたちに

子どものやる気を育てる上で大切なのは、子どもたちの興味を尊重すること。そして、子どもが先生に合わせるのではなく、先生が子どもの個性を受け入れることが大切なんです。子どもの興味を引き出し、楽しみながら力をつけていく学習方法をプロジェクトラーニング(課題解決型学習)と言います。小さな子どもを指導する場合、上手いかず問題が起こることも多いのですが、そういった問題を解決していくこと自体がこの学習法。自ら問題解決に取り組んでいく習慣が「やり抜く力」を育んでいくのです。

オーエン先生にインタビュー!

レポートはこちら



日々の成長を、学ぶ意欲につなげる

当塾では、自主的に学ぶ意欲が成績向上につながるという考えを念頭に置いたスタイルをとっています。生徒ごとに小さな課題を与えています。例えば、少しだけ宿題の量を増やしたり、問題の出題方法に変化をつけたりするなど、着実にクリアしていく経験を積み重ねることで自身の成長を感じてもらうことができます。これは学習意欲の向上に繋がります。やる気が刺激された生徒はどんどん伸びていきますよ。

塾長 長島 宏明先生にインタビュー!

レポートはこちら



長島先生

め塾



古田先生

EQWEL
チャイルドアカデミー
高槻駅前教室



脳の感受性が豊かな時期がスタートのタイミング

脳科学や心理学に基づく独自のメソッドで、親子で楽しみながら確かな力を身につけるための学びを提供しています。脳を鍛えるには、脳の感受性を逃さず脳が発達に即した働きかけをすることが重要です。月齢に応じたプログラムの小さな成功体験は達成感を得られると同時に、できないことに対しても「いつかできるようになるから頑張ろう」という自制心も育みます。その積み重ねが「やり抜く力」へとつながります。

教育長 古田 紀美子先生にインタビュー!

レポートはこちら



松谷先生 茨木スポーツクラブ

成功体験が積み重なると、あきらめない心が身につく

やり抜く力を育てるために一番大切なことは、多くの成功体験をさせてあげること。私たちは体操を通して身体の成長はもちろん、心の成長のお手伝いもできればと考えています。子ども達は「3段の跳び箱が跳べたよ!」「逆上がりができるようになった!」と新しく出来ることが増えた瞬間に一番の笑顔を見せてくれます。"今までできなかったことが出来るようになった"という成功する喜びが積み重なり、最後まで諦めない心が育まれています。

代表
松谷 隆先生の
レッスンに潜入!

レポートはこちら

